

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第9週（2月28日～3月6日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「小児科・眼科定点疾患の報告数 増加」

第9週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は639例であり、前週比7.9%増であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.52、0.26、0.13、0.11、0.09である。

感染性胃腸炎は前週比4%増の496例で、中河内3.70、南河内3.63、三島2.94、豊能2.61、大阪市南部2.47であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は55%増の51例で、大阪市南部0.58、中河内0.45、南河内0.44である。

咽頭結膜熱は57%増の22例で、大阪市北部0.71、三島0.19、北河内0.15であった。

RSウイルス感染症は45%減の17例で、大阪市北部0.36、大阪市南部0.16、大阪市東部0.14である。

第4週以降、小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計の減少が続いていたが、第9週は増加がみられた。

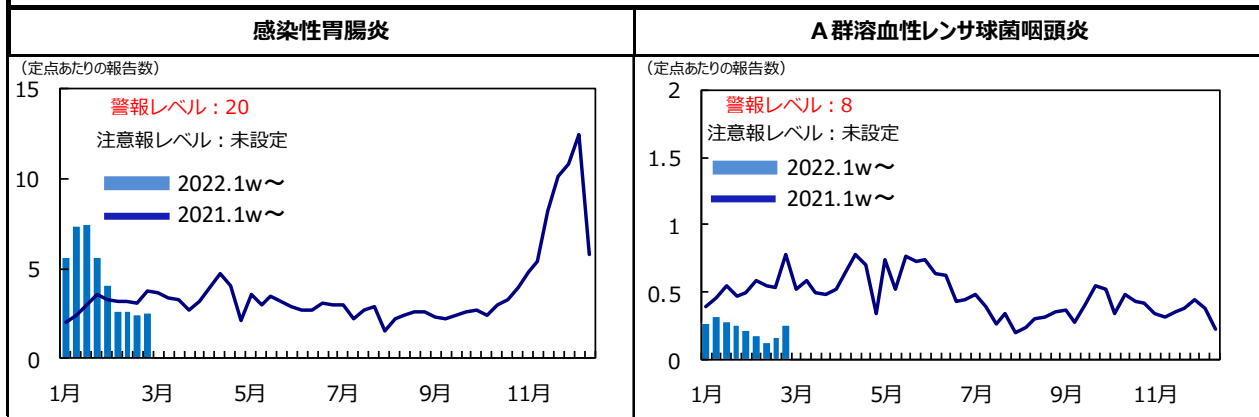


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第9週2月28日～3月6日）

第9週の順位	第8週の順位	感染症	2022年 第9週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第9週の 定点あたり 報告数	2022年第9週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.52	4%増	3.76	2歳_13%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	55%増	0.79	20歳以上_14%
3	4	突発性発しん	0.13	39%増	0.30	1歳_56%
4	5	咽頭結膜熱	0.11	57%増	0.15	1歳_41%
5	3	RSウイルス感染症	0.09	45%減	0.94	1歳_35%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.03	700%増	0.01	3歳,15-19歳, _25%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第9週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

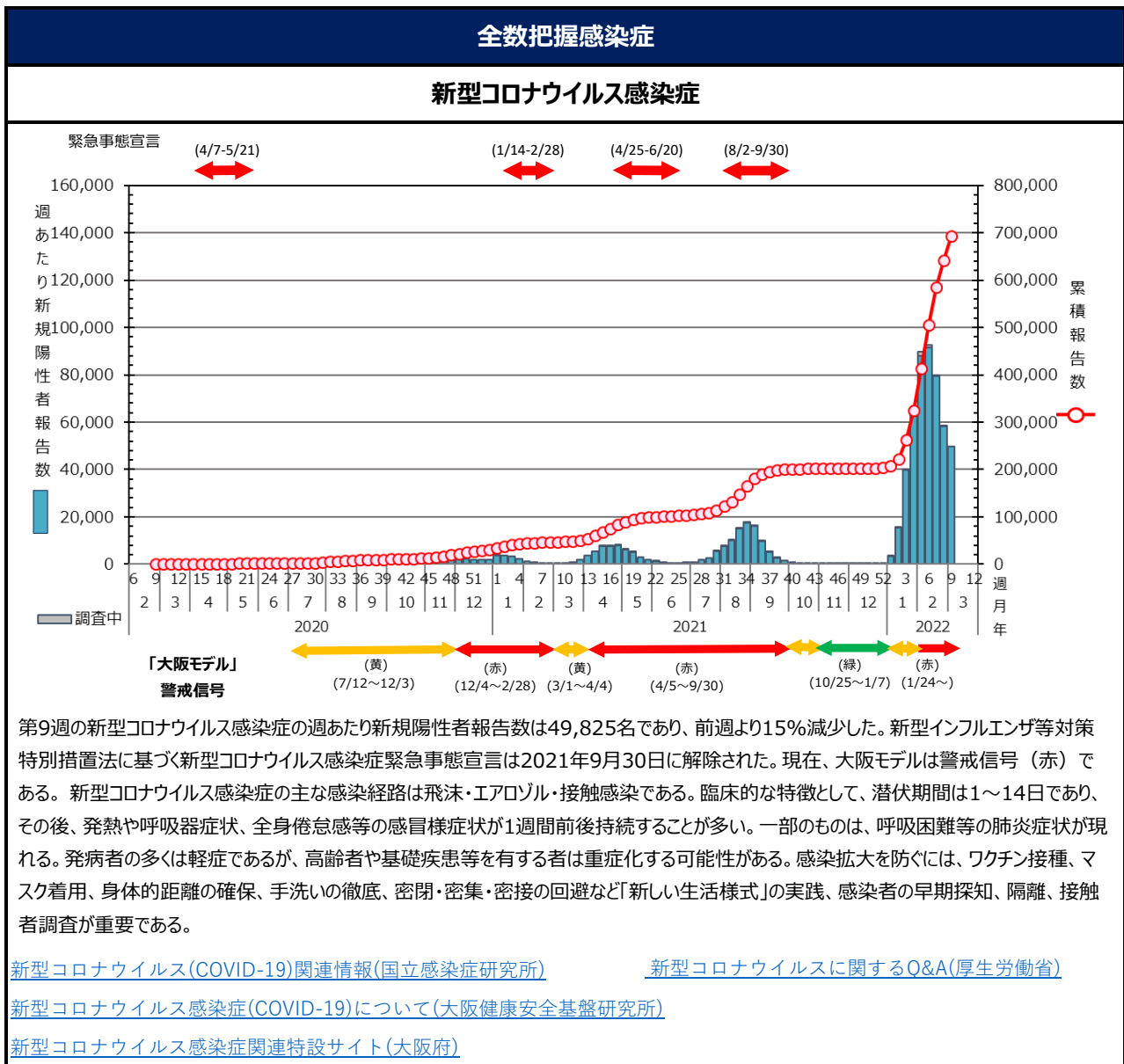


表 2. 大阪府全数報告数（2022年 第9週2月28日～3月6日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	細菌性赤痢	2						2		3
	腸管出血性大腸菌感染症	3		3						5
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1		1						12
5類感染症	アメーバ赤痢	2				1			1	10
	梅毒	6		1	2				3	161
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1							1	3
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	49,825	2020年1月以降累計 692,351							
結核 (2022年1月分)	結核 新登録患者数：52名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 23名) (府内累積報告数 52名、内 肺・喀痰塗抹陽性 23名)									

(2022年3月8日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)